

内 報

(3)

平成 30 年 3 月 25 日

世界救世教 ☉ 之光教団

目 次

まえがき	5
明主様のお歌	7
明主様のみ教え	11
「包括・被包括関係の解消」 に対するの法的対応	18

まえがき

明主様は、本教を、なぜ「世界救世教」とされたのでしょうか。明主様はご在世中に、本教を「きゅうせい教」と呼ばれたことはありません。「メシヤ教」であります。世界人類をお救いになるという大聖業と、「メシヤ教」としてご開教をなさったことに、深甚なる意義があるものと存じます。

さらにメシヤ教を創立されて以降、キリスト教との関わりについて特に言及されるようになりました。私どもは、こうした明主様のみ教えを大切に受け止めさせていただく必要があると思います。

このたびの教団の現状も、こうしたみ教えを記された明主様のみ心をどのように受け止めさせていただくのかということと、深く関わっているのではないのでしょうか。

今号では、「メシヤ」「キリスト教」に関わるお歌とみ教えを掲載させていただきました。

また、「包括・被包括関係の解消」に対して、正式な提訴を行いました。その概略についてもお伝えします。

【明主様 お歌 — メシヤあるいはキリストに関して】

※ ここでは、昭和6年から昭和29年までに、「メシヤ」「キリスト」に関してお詠みになったお歌の中から一部掲載させていただきました。「メシヤ」については、立教当初より、明主様はご心中にはっきりとお考えをお持ちになっておられたことが、お歌より拝察されます。そのことが、「メシヤ教」開教によって、よりいっそう明らかにされるようになりました。そして、昭和29年6月5日、「メシヤが生まれた」との「明主様御言葉」のご発表に至ります。

あまた おしえ
数多ある教を救ふ教こそメシヤの揮^{ふる}ふ力なりけり

さんがいばんれい
三界万靈メシヤの出でて喜びの声なき声は世に響くなり

だいメシヤ みな
大救主の御名は最後の世を救ふ尊き御名なり心せよかし

はて メシヤ あも
万民の悩み苦しみ涯もなき世ぞ救はむと救主天降りぬ

メシヤ うつしよ くだ
ハレルヤハレルヤ救世主の神の現世に降らせ給はむ時ぞ楽しき

あ
観音の衣をかなぐり捨て給ひメシヤと生るる大いなる時

あまた おしえ
数多ある教を救ふ教こそメシヤの宣らす教なりけり

栄光の雲より降る大救主を歓呼の声に迎ふ嬉しさ

憂きの世を切り換へまさむ力こそメシヤの揮ふ力にぞある

キリストや釈迦マホメットの待ち侘びしメシヤの神は天降りましける

待望のメシヤ生れぬ警鐘をひた打鳴らし世人醒まさむ

万人の再臨待ちしキリストもメシヤも彌勒も同じ神なる

キリストの宣らせ給ひし天国の福音吾は伝へむとすも

キリストの再臨の謎解けぬらんメシヤの出づる時の来ぬれば

世の終り近むにつれてキリストの眞の御霊世に知れぬらむ

キリストは救世主なりけりいやはての世に現れまする仕組なりける

経と緯結ばれ十字になる時し待たれ給ひしキリストの神

再臨のキリストもメシヤも等しけれ呼ぶ言の葉の違ひあれども

長き世を待たれしメシヤもキリストもミロクも今し天降るなり

キリストの父なる神は主の神と知れよ信徒吾と併せて

世に勝てるメシヤの君ははればれと神の都に入らず時来ぬ

キリストは再臨まさん東方の黄金の国に誓ひのごとく

栄光の雲より降るキリストの世に知れ渡る時ぞ近みぬ

わが揮ふ火の洗霊をキリストの君は天国に喜びますらむ

人間の尊き生命救はする力の主はメシヤよりなき

キリストや釈迦の望みを吾は今果さんとして日に夜に励しむ

地の限りメシヤの光隈もなく照らさん時ぞ神の足る御代

パリサイの人よ聖典今一度直霊の光に見直されかし

パリサイ人等悔ひ改めて額かん栄冠耀くメシヤの御前に

※ パリサイ派は、イエス・キリストの時代に活動したユダヤ教の一派。律法（神様から与えられた宗教上・倫理上・生活上の規範、教え）の厳格な遵守を主張し、これを守らないものは排斥した。イエス・キリスト迫害の主導的役割を果たした。イエスはその偽善的傾向を激しく攻撃した。

キリストの信徒達も慌てなむ待ちに待ちたる再臨の時

大いなるメシヤの光外国に輝き初むる時となりぬる

いやはてに天より降るキリストに世のもろもろは甦るらむ

いやはての世の戦の恐ろしもハルマゲドンとヨハネいいける

栄光の雲に打乗り基督の降らん時の近まりにける

ハレルヤハレルヤ輝いて勝利の都へ天降るキリスト

あな尊と天より降るキリストを祝ふハレルヤの声ぞうれしき

ハレルヤの歓呼の聲に輝いて降るメシヤを仰ぐ嬉しさ

いやはてにメシヤの救主は降るらむハレルヤハレルヤの聲に迎へられ

ハレルヤの歓呼の渦の直中に静かに天降るメシヤキリスト

【明主様 み教え — メシヤあるいはキリスト教に関して】

※ 明主様は、キリスト教の意義と働きについて明らかにされています。そして、キリスト教との関わりが、世界を救う上で、大切な意味をもつものであることを示されています。教主様のお言葉を、本教をキリスト教化するしない等の次元で論じることじたい無意味であることが、み教えによって明らかにされているのではないのでしょうか。

本教を明主様が仰るように「メシヤ教」と受け止めるならば、「救世教」として歩んできたご昇天後から今日までの“救世教観”では、「メシヤ教」の本旨を受け止めることはできません。また、キリスト教に対しても今までのような観念でキリスト教を見ることは、み教えにそぐわないことになってしまいます。

私たちは、よくよく白紙になって、み教えを「全く新しく、」
いただいでいかねばなりません。

昭和二十二年八月三十日、宗教法人として、創立された日本観音教団並びに同二十三年十月三十日同じく創立された日本五六七教会は、今回自発的に解散し、右両会を打って一丸としたる新しき構想のもとに、本年二月四日立春の日を期して、表題のごとき宗教法人世界救世教の創立出現となったのである。

これは、非常に重大な意義があり、もちろん神の深き御旨によるのであって、人間の意図ではないことはいまさら言うまでもない。いつも吾らが唱えるところの、霊界における夜昼転換の時期にいよいよ入ったからである。（中略）したがって、観世音菩薩のお働きも救世主のそれとなるのは勿論である。すなわち化身仏であらせられた観世音菩薩はここに仮面を脱いで、ご本体である神のお働きとなり給うのである。

以上のごとく霊界が昼となる以上、これが現界に移写するにおいては、夜の文化は当然不用なものは滅び有用な物のみが残ることとなるのは当然であ

る。そのみではない、長年月に渉る暗黒時代によって人類の罪穢れつみけがの少なからず堆積たいせきせる以上、その清掃作用が行われなくてはならない。右の滅ぶべき不用物とはこれを指していうのである。しかもそれと同時に昼の文化の建設が開始さるるのである。このごとき空前絶後の一大転機とは、何を指すのであろうか、まったく何千年いな否何万年以前より決定していた神のプログラムなのである。

また別の言葉を借りていえば大規模な世界的破壊と創造が行われるのである。嗚呼あこのような重大時期さいかいに際会しつつあるいま、神の大愛はいかなる形に現れるかを知らねばならない。すなわちその具体化としては一切が滅ぶるものと生き残るものとのいずれかに決定さるるのである。しかしながら右は止むを得ないとしても神の恩恵は、一人でも多く滅ぶるものを救わせ給わんとして、神の代行者を選び救世きゅうせいの大業たいぎょうを行わせ給うのである。またその使命達成の機関として運用されるのが本教であるから、本教の使命たるや実になりというべきである。この意味においていよいよ切迫せる最後の時期に当たっての活動かつもくこそ刮目すべきものがある。その結果われ吾らの唱導しょうどうする地上天国こそ最後の目標でなければならないのである。

私はこれまで顧問こもんの名のもとに、いわば陰かげにあって経綸けいりんを行っていたが、漸くようや基礎的きそてき工作もできあがったので、ここに表面的活動に移ることとなったわけである。端的たんできにいえば、いよいよ本舞台に登場することとなったのである。したがって各般わたに渉わたって漸次ぜんじ組織形体はもとより、活動の形式も新しく生まれるのは勿論もちろんである。

(中略)

最後に言わなければならないことは、これまでは観世音菩薩のお働きであったから、いわば東洋的であった。しかるに時期切迫のためどうしても一大飛躍によって全人類を救わなければならない、とすれば世界的に拡充する必要がある、世界救世教メシヤの名による所以ゆえんである。

いま一つは観世音菩薩は、善悪無差別的の救済であったが、いよいよ地上天国が目前に迫り来たきた、今日ここに善悪を立て分け、善を育て悪を滅しななければならないことになった。いわゆる悪のトドメである。したがって救い

の力も決定的でなくてはならない、その力こそメシヤの^{ふる}揮わせらるる大神力である。嗚呼、^{あ あ}慶賀^{けいが}すべき時とはなったのである。

(「天国の礎」宗教上「開教の辞 世界救世教^{メシヤ}の誕生について」 昭和 25 年 2 月 4 日)

私は神の啓示によって具体的に表わすのであるから救世教^{メシヤ}の名もそうであって、神様から救世教^{メシヤ}の名の啓示があったのである、然し救世教では漢字であるから東洋に限られる、どうしても全人類を救うにはそれに相応する意味を表わさなければならない、それが為、救世^{メシヤ}のフリ仮名を付けたのである。

(「救世教^{メシヤ}の名に就^{つい}て」 昭和 25 年 2 月 18 日)

西洋では一応キリストをメシヤと称しているが、まだしっかりした定義のもとに言っているわけではない。救世主といっても、真にその目的を達成したものはない。二十世紀前半までその実力を顕現するまでにはゆかなかったかもしれないが、しかし、いよいよ、これからが神の実力が発現される時期に入ってきたといえる。西洋においてはキリストもさぞや本来の実力を発揮されることと思う。しかして東洋においてはメシヤがほんとうに御神力を発現されることと確信する。だから従来のような宗教的観念ではとうてい理解できない。もっと神秘にして^{ゆうすい}幽邃な御神力がはじめて登場することになる。私は^{もちろん}勿論メシヤの代行者であるから、今後、いかなる形態によってメシヤのお働きが行われるか、想像だに許されないが、しかし、現在のわずかではあるが、神の御動静から推察してこれはまた大変な御霊力が宇宙にご加護あられるということが申してもよいと思う。

(「天国の礎」社会 救世自然農法「神の力顕現 宇宙に加護の時来る」 昭和 25 年 3 月 11 日)

(観音教をメシヤ教と変えた理由について)

私は世界人類を救うのが目的ですから、その名も世界的でなくてはならぬと常々思っていたからです。つまり観音教では東洋だけに限られているからです。それから私は、「メシヤ」という名前が非常に好きなのです。しかし仮名^{かな}の「メシヤ教」では誤解を受けてはいけないと思って、漢字の「救世」に仮名をつけたのです。いよいよ時期が来たと思って変えたのです。

（「天国の礎」宗教上「日置昌一氏との御対談」 昭和 27 年 12 月 10 日）

問 世界メシヤ教の世界的な意義は……

答 信仰によって世界全人類を幸福にみちびくのがその最大の目標です。しかし西洋にはキリスト教があります。そのキリストの^{いわ}曰く「天国近づけり……」はわが教理と最も近きにあり、わが教理は「現世の天国」を一日も早くつくることにある、キリストの遺訓まことに立派で、やはり世界人類救済の神力や偉大です、私はわが新教（世界救世教^{メシヤ}）はこのキリスト教と呼応し、東洋において、わけてもまず日本で、人類の善導と救済に全智全能をあげて働いてゆきたい。したがってこのことが今後の世界平和に必ず大きな寄与をなすものと堅く信じています。まことに本教こそ日本で生まれた最初にして最大の世界平和推進に役立つ宗教であろう、宗教に国境なしという言葉がある通り、本教の真面目と現実の靈験が納得できれば必ず日本人は勿論東洋人全体が真に平和に徹した^{こうまい}高邁、清純な精神を保持することが可能である。世界平和のために、人類世界の争闘をなくするためにも本教将来の活動が活潑にならなくてはならない、この真理を了解できざる人々こそ平和を希求しない不幸な人々だといえよう。

（「天国の礎」宗教上「キリスト教と呼応^{あまね} 東洋に^{あまね}浴く布教」 昭和 25 年 2 月 4 日）

立春の日には組織^{かわ}が変った。

元旦には、今年からたいへんだと言った。それは世間のことと思ったら、教団自体に大きい変わり事があった。

これからは世の中に変わり事があると思う。いまは観音様のお働きはできない。祝詞にも、応身^{みろく}弥勒と化し、メシヤとならせと入れた。観音様はメシヤとならせられ、観音様のお働きはメシヤになる。観音様は東洋的であり、世界的のものではない。

世界人類の救済からゆくと、メシヤ教はよほどキリスト教に近くなる。いずれはそうなるべきだが、ようやく時期が来たのである。

(「中島氏帰幽に関するお言葉」 昭和 25 年 2 月)

大体、メシヤとはキリスト教と深い関連があるので、この解釈は欧米においても諸説^{ふんぶん}紛々としていまもって決定はされないようである。というのは人智では深い神秘の奥を探り当てることは困難であるからである。

私自身としても未^{いま}だメシヤとは名のらないとともに、キリストの再臨とも言わない。これはある時期までは神様から発表を禁じられているからでもある。もっとも仮にメシヤの降臨などと思われでもしたら大変である。世界中からワーワーとやって来て、とうてい仕事などできるものではないからである。

今日^{こんにち}確実に言えることは、世を救うべく大経綸を行うことである。これは現に私が行いつつある事実を見れば^{わか}判る、救世教^{メシヤ}の名を冠したのもそのためである。

ここで特にいうべきことがある。それはあらゆるものが世界的になった今日、既成宗教は未だほとんどが、限られたる地域的救いの^{わざ}業であるに見て、全人類を救うべき使命ではなかったことを知るべきである。ただキリスト教のみは、全人類の救いが使命であるから、今日のごとき大を成したのである。

(「天国の礎」宗教上「五六七大祭」 昭和 25 年 3 月 11 日)

今日聖書を通覧してみると最も重要である点は「最後の審判」と「天国は近づけり」と「キリストの再臨」の三つであろう。これを検討するとき右

の中最後の審判は神が行うのであり、キリストの再臨は、これは天の時至って表れることで説明の要はないが、ただ天国のみは人間の力で建設するのである。とすればこれはいつの日か誰かが設計者となり建設の実を挙げなければならぬのは勿論である。

右のごとくでありとすれば、その時であるが、吾らの見解によれば時はいまであり、そうして建設者は本教であることである。その具体化はすでに始まっている。見よその模型を、目下建造しつつあることは本紙に再三発表した通りである。

右のごとく、本教が地上天国を造ることによって、キリストの予言はここに的中するのである、といっても別段誇ろうとするのではない。何となれば聖書の予言も、本教がそれを具体化することも、神工ホバが人類愛の御心によって理想世界の建設のため、時に応じて選ばれたる人間を、自由自在に駆使せらるるからである。

右の意味において、現在行いつつある吾らの事業は、すでに二千年前聖キリストによって予言せられており、その予言実行のための使命を課せられた一員としての吾らと思うのである。

（「天国の礎」宗教上「天国予言の具体化」 昭和 25 年 3 月 20 日）

米国今日のごとく、世界の指導者として磐石の地位も僅々百数十年の期間に築き上げたということは世界の驚異で、その原因が奈辺にあったかを知るべきである、それはまったく崇高なる宗教精神が、その根幹をなしていたことで、このことによってみても再建日本としての最も緊要なることは国民こそ挙げて信仰心をもつことはいうまでもないのである。米国においてはいかなる家庭といえども一冊の聖書は必ず備えてあるということなども実に羨しい限りである。 （「天国の礎」宗教下「日本人と宗教心」 昭和 24 年 12 月 17 日）

今一つ言いたい事は、今日の米国の繁栄である。その原因が那辺にあるか

を、充分検討すべき必要があろう。言う迄もなく同国の一般国民思想はキリスト教が根幹をなしており、それが凡ゆる面^{あら}に表われている。先日彼のマ元帥が、朝鮮問題に対して発表された宣言中^{われら}にあった「神は吾等の目的を助けるであろう」との一言は、同元帥の信仰が如何^{いか}に深いかを物語っている。又ト大統領初め米国の有識階級は殆んどキリスト教信者という事で、米国の家庭には『聖書』のない家は殆んど一軒もないとの事であるにみても、同国の民主主義は全くキリスト教精神の現われでなくて何であろう。処^{ところ}が現在の日本はどうであろうか
（「法難手記」 昭和 25 年 10 月 30 日）

最後に一ついいたい事がある。アイゼンハウアー、トルーマン、マッカーサーなどの講演にしても、必ず神という言葉が入っている。ついこの前、アイゼンハウアー大統領就任式の際、大統領が『聖書』の上に左手を載せて誓った光景を見た時、何んともいえない感に打たれた。アメリカの繁栄と、平和維持のための、烈々たる気魄^{きはく}はここから出たものに違いない。とすれば少くとも、この人達は、神のあることを認めているわけだ。之^{これ}に比べ日本の御歴々^{おれきれき}は、いつの演説でも神の言葉など葉にたくもいったことがない。日本の政治家達も、神の言葉を口に出すようになれば、始めて公明選挙の実もあがるというものだ。（「公明選挙について(二)」東京日日新聞 昭和 28 年 4 月 8 日）

最後に追加したい一事がある。それは獄舎内に成可^{なるべく}一室に一冊宛^{すつ}の『聖書』を備えつける事である。世界の凡ゆる^{あら}宗教関係書籍の内、罪を悔改めるに最も力あるものとしては、『聖書』に優るものはないからである。

（「法難手記」 昭和 25 年 10 月 30 日）

「包括・被包括関係の解消」に対するの法的対応

この度、世界救世教 ㊦之光教団及び仲泊弘世界救世教代表役員（管長）は、静岡地方裁判所沼津支部に対し、大要、2月28日、世界救世教及び長澤好之代表役員代務者を債務者として仮処分の申立てを、また3月7日、世界救世教を被告として仮処分申立ての本訴の提起を、それぞれ行いましたので、まずは、その概要を以下のとおり、ご報告致します。

1. 仮処分について

本訴に関しては、1審判決が出るまでに決して短くない年月がかかる見通しです。その間、長澤責任役員代務者（長澤氏）に職務を任せていたのでは、世界救世教及び ㊦之光教団が多なる支障と損害を被りますので、より短い期間で裁判所の判断が下される仮処分の申立てを、本訴に先行して行いました。

裁判申立ての内容は、長澤氏が代表役員代務者の職務を執行してはならないことや、その代わりに裁判所が選任する者を職務代行者にすることや、㊦之光教団は、世界救世教の被包括宗教法人の地位にあることを仮に定める、などを裁判所に求めるというものです。

2. 本訴について

仮処分の申立てに引き続き、本訴の提起を行いました。

本訴の内容は、まずは、包括役員会における、世界救世教と ㊦之光教団との包括・被包括関係を廃止する旨の決議や、㊦之光教団の行為が教義に著しく違反している旨の確認は、無効であることを確認することや、仲泊（管長）が、世界救世教の代表役員兼責任役員の地位にあることの確認を裁判所に求め、仮にこの請求が認められない場合であっても、㊦之光教団が、世界救世教の被包括宗教法人の地位にあることの確認を裁判所に求める、というものです。

以 上

